

# IV 開発教育指導者研修(実践編) 第3回

## ■ 開催概要

- ◆ 日 時：2015年8月22日(土) 13:00～17:10、23(日) 10:00～17:00
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者40名、JICA7名、NIED5名、オブザーバー1名、合計53名  
[2日目] 受講者40名、JICA6名、NIED6名、オブザーバー1名、合計53名
- ◆ ファシリテーター：(特活) N I E D・国際理解教育センター 伊沢令子氏

## ■ 第3回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育の参加型プログラムの作り方と進め方を体験的に学ぶ。

- ① 「流れのあるプログラム」とは何か、これまでの研修を元にふりかえり、その作り方を学ぶ。
- ② ねらい+内容+手法の組み合わせであるアクティビティについて理解し、その進め方を習熟する。
- ③ 参加と対話を引き出し、学び変化する場に寄り添うファシリテーターと参加型のポイントを確認する。

## ■ プログラムの内容

### ● セッション1 「第1回・第2回ふりかえりと第3回のねらいの確認」 8/22 13:00-14:06

#### 1. 主催者あいさつ/スタッフ紹介など 13:00-[5]

◇ JICA 中部 木村職員が開会を宣言し、第3回にオブザーブ参加する JICA 北海道(札幌)の専門嘱託の紹介を行った。

#### 2. 第3回のねらいの確認 13:05-[5]

◇ 第1回、第2回をふりかえり、レジュメを基に第3回のねらいをと進め方およびこの研修の目的をファシリテーターが説明した。

<この研修の目的>

開発教育・国際理解教育についてを、ただ知っているというだけではなく、以下のことができるようになる。

- ・ 様々なテーマで参加型ワークショップのプログラムを作ることができる
- ・ 参加型ワークショップの進め方のポイントを知っている
- ・ アクティビティを組み立て、ファシリテートできるようになる
- ・ 机上の空論ではなく、参加型の手法を使うことができる

#### 3. アイスブレイキング ～たぶんあなたはこんな人～ 13:10-[29]

◇ グループ内で、自分の右隣の人について4つのお題(①好きな色、②好きな食べ物、③学生時代にはまっていたであろうこと、④夢)を想像してA4用紙に書き出し、他己紹介を行った。

◇ 書き出した用紙を本人に渡した。自分に対して書かれた内容が違っていた場合は訂正し、「実は私はこんな人」と自己紹介した。

◇ ファシリテーターコメント…普段、よく誤解されがちな人はいるだろうか。「私は、本当は…」と伝えられれば相互理解は深まるはず。たかが自己紹介だが、「本当はどんな人だろう」「自分はどう思われているんだろう」という想像が関心につながる。



開発教育・国際理解教育を通して、一人ひとりが大切にされる人権尊重社会を築くためには、まずは自分と身近な他者を大切にできるようになるとよい。そのためには関心を持つことが鍵であり、その関心を持つきっかけを作り出すことがファシリテーターの役割である。

#### 4. 第2回ふりかえり 13:39-[27]

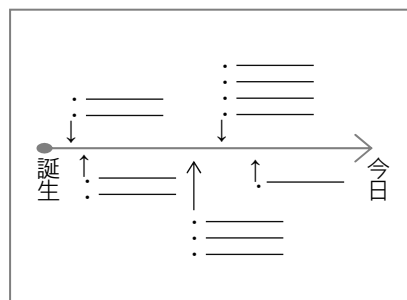
- ◇ 第2回研修の記録を各自読み、印象に残ったところ3カ所に下線を引いた。
- ◇ 印象に残ったところとその理由について、グループ内で伝え合った。
- ◇ ファシリテーターコメント…頭の中で分かっているだけではなく、言葉にすることができると言える。また他者と意見を共有することによって、気づきと学びが倍増する。



### ● セッション2 「価値観とスキルを育てるための手立て」 8/22 14:06-16:04

#### 1. 人権、環境、共生、平和 に関する価値観を育てるために役立つこと 14:06-[54]

- ◇ 価値観とは、自分の行動の基になっているもの。まずは自分の価値観を振り返ることから始めた。A4用紙に、生まれてから今日までの時間軸線を引き、自分の価値観に影響を与えた出会い・出来事をタイムラインに書き出した。
- ◇ 個人の経験をグループ内で言える範囲で共有し、それを基に、よりよい未来につなげる価値観を育てるために役立つことは何かを一般化しながら考え、模造紙に書き出した。
- ◇ 模造紙を読み回し、他グループの成果を共有した。同時に、共感したことに☆印、グループ内で解決できなかった疑問点に？印をつけた
- ◇ 全体で？印について、その意図を共有した。



#### 【よりよい未来につなげる価値観を育てるために役立つことの成果例】

- ◇ 環境の変化 ◇ 様々な価値観の人との出会い・様々な年齢層の人との対話 ◇ 見本となる人
- ◇ 家族の存在 ◇ 幼少期の人間関係 ◇ 共有できる仲間存在 ◇ 教師（←広い視野）からの影響
- ◇ 「いいな」と思える雰囲気、気持ち ◇ 相手を理解するための言葉を学ぶ・理解する
- ◇ 人から認められる・褒められる言葉 ◇ 自己肯定感を高める声のかけ合い
- ◇ 身の周りの人を大事に ◇ 異文化に関わる体験・経験 ◇ 自分の世界から出る・外の世界に身をおく  
→自分のものさしが変わる ◇ いつもとちがうことをする・いろいろな仕事をやってみる
- ◇ 様々な場をつくる ◇ 命（に触れ合う経験）を大事にする ◇ 生死感（親）、守るべき物（子ども）
- ◇ 情報（テレビ・ドラマ・映画・本・ゲーム） ◇ 一つのことをやりぬく ◇ 一歩ふみだす勇氣
- ◇ 成功体験－挫折・失敗体験 ◇ 困難・挫折・悔しい思いを乗り越えたときの達成感
- ◇ 「こうなりたい」と少し先を見る力 ◇ 自分から行動しようとする気持ち
- ◇ 失敗・結果を恐れない、楽観的 ◇ 苦勞→あえて苦手なことをやってみる
- ◇ 思い込みを捨てて行動する ◇ チャンスの神様を逃がさない！！ ◇ モヤモヤからの気づき
- ◇ 人間関係を面倒くささらずに向き合う ◇ みんなちがってみんないい！
- ◇ 「好き」「嫌い」以外のものさしをもつ ◇ 震災（自分が被災した経験） ◇ 「ある」ものに感謝する
- ◇ 自分の考えを知る⇔他の人の考えを知る→違いに気づく→価値観が変わる！！

- ◇ よりよい未来に向けて参加者・学習者の価値観を育てるために、教育を通して私ができることを個人で3つ考え、グループ内で発表し合った。

- 休憩 - 15:00-[10]

## 2. グループ替えと自己紹介 15:10-[9]

- ◇ グループ内でジャンケンをし、勝った人1人と負けた人1人が移動しグループ替えを行った。
- ◇ グループ内で「子どものころ好きだったこと（おやつ、遊び、絵本・TV・アニメ・漫画、場所、人の中からひとつ）」というお題で自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…自己紹介を重ねるごとに距離が縮まっていく。肯定的に受け止めてもらったり、自分に肯定的なものを出し合ったりすることで、よりよい関係が築かれていく。

## 3. わたし、あなた、みんな に関わるスキル ソーシャルスキル・トレーニング 15:19-[20]

- ◇ ファシリテーターより、①経験学習の4段階、②どんなスキルを育てるとよいか、③ソーシャルスキルトレーニングについて説明した。

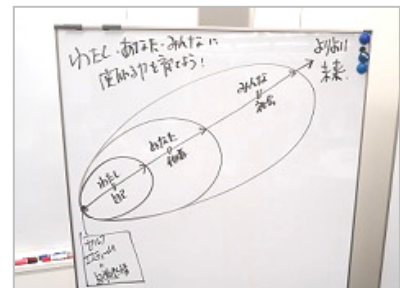
### ① 経験学習の4段階

- ・体験する→ふりかえる→一般化する→応用する
- ・体験だけで終わるのではなく、経験から行動につなぐプロセスであり、最終的には自分の行動に落とし込み日常につなげる。

### ② どんなスキルを育てるとよいか

- 1) わたしに関わる力…自己理解、自己肯定感
- 2) あなたに関わる力…コミュニケーション、他者理解、他者尊重
- 3) みんなに関わる力…社会に関わる力、多様性受容力、合意形成、政策提言

- ・もっともコアなものは自己肯定感（セルフエスティーム）。自分に関心がなければ、他者や社会に関心を持ってはたらかせることはできない。



### ③ ソーシャルスキルトレーニング

- ・「ソーシャル」＝「人間関係の」
- ・「スキル」＝「技術やコツ」
- ・ソーシャルスキルとは、良好な人間関係を築き、続けるために必要な知識と具体的な技術やコツのこと。このスキルを使えば、相手も自分も気持ちのよい人間関係を作ることができる。
- ・ソーシャルスキルは、練習すれば誰でも身に着けることができる。開発教育・国際理解教育では、価値観を育てるだけでなく、同時にスキルも育てていく。

### 3-1. 「まりの物語」とわたし・あなた・みんなに関わる力 15:39-[4]

- ◇ 付箋を1人1枚持つ。ファシリテーターが読み上げる『まりの物語』をまりの気持ちになって聞く疑似体験をし、自己肯定感が下がったと感じたときにポストイットをやぶった。
- ◇ 以下の視点で、グループ内で意見を出し合った。
  - ・自分の意見を言えるためには、まりにどのような力があったらよかったのか
  - ・同じ事を言うにしても、どう言えばまりは傷つかなかったのか
  - ・周りの人にどのような配慮があったら、まりは傷つかずにすんだのか



### 3-2. ソーシャルスキルトレーニングの方法 15:43-[21]

- ◇ 資料『ソーシャルスキル1～8』を配付。分担して読み、スキルの種類、トレーニングの方法、ポイントをグループ内で発表して共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント…関わる力、参加する力、聞く力、伝える力は、それぞれ実践なしでは身につかない。参加型は、それらの力を育むためにお互いが関わりながら進めていく。授業を参加型にするだけでスキルトレーニングになる。

### ● セッション3 「プログラムの作り方」 8/22 16:04-17:10

#### 1. グループ替えと自己紹介 16:04-[15]

- ◇ ソーシャルスキルについての感想をグループ内で発表した。
- ◇ ファシリテーターが1~10までの番号を振り、同じ番号の人同士でグループになり、指定のテーブルに着席した。
- ◇ グループ内で「座右の銘または好きな言葉」というお題で自己紹介を行った。

#### 2. プログラムとは何か（プログラムの構成／アクティビティ／参加型手法） 16:19-[26]

- ◇ 名古屋市発行『環境学習実践者向け ESD ガイドブック ESD はじめの一步』を配付。P30~34「参加型の学びを作ろう！」を個人で読み、プログラムとアクティビティについて把握した。
- ◇ 同冊子 P36~38「参加型手法の解説」の8種類の手法を分担して読み、これまでの研修も振り返りながら、それぞれの手法の使い方をグループ内で発表した。
- ◇ ファシリテーターコメント…プログラム作りはストーリー作りである。参加型とは、単にみんなで話すのではなく、共通の枠組みがあるために発見が生まれるもの。第1回・第2回の記録を「流れ」という視点で読み直すと、新たな発見があると思う。



#### 3. 流れのあるプログラムの作り方 レクチャー 16:45-[3]

- ◇ プログラムの作り方をファシリテーターから説明した。

<プログラムの作り方>

- ① テーマ設定・テーマ理解
- ② ねらいの設定…プログラムの軸。学習者が何を知るようになるか、どう行動するようになるか、どう考える
- ③ 流れづくり・起承転結の四行詩…学習者の意識の流れに沿って順番を考える→プログラムのストーリーになる
- ④ 流れに沿ったプログラム作り…アクティビティ・手法・問いを考え、組み立てる
- ⑤ グループで共有…学びや気づきを共有
- ⑥ ふりかえり

#### 4. 2日目のスケジュール確認 16:48-[1]

- ◇ ファシリテーターより、2日目の内容を説明し、確認した。

#### 5. JICA TIME 16:49-[20]

- ◇ JICA 事業について、各担当者より案内・告知を行った。
- ① JICA 中部 古藪調整員より
  - ・グローバル教育コンクール2015 募集に
  - ・エッセイコンテスト2015 募集
  - ・青年海外協力隊シニア海外ボランティア
  - ・協力隊まつり
  - ・指導者研修のスキルを活かす場…「中部 BQOE 研究会」「はままつ国際理解教育ネット」「各県の開発教育指導者研修初級編講師」
- ② JICA 静岡県デスクより
  - ・9/5 JICA ボランティア帰国報告会
- ③ JICA 愛知県デスクより
  - ・イベント「シニア海外ボランティアという生き方」



#### 6. 事務連絡 17:09-[1]

- ◇ メーリングリストについて、教師海外研修参加者への記録 HDD 説明会について、事務局が伝えた。

★ 17:10 終了

## ● セッション4 「教師海外研修報告」 8/23 10:00-10:33

### 1. あいさつ 10:00-[2]

◇ JICA 中部 木村職員が、2日目開始にあたっての挨拶を行った。

### 2. 教師海外研修ガーナチーム報告 10:02-[15]

◇ 同行ファシリテーターの挨拶の後、ガーナチームが ①ガーナの第一印象、②小学校訪問活動、③食文化、④カカオ農園見学、⑤輸出品の変化、⑥野口英世研究所について現地の写真とともに紹介し、ガーナと日本との同一性・相違点、支援のあり方や両国のパートナーシップに大切なこと、研修を経験した私たちができていることを、学校の授業形式で発表した。



### 3. 教師海外研修エルサルバドルチーム報告 10:17-[16]

◇ 同行ファシリテーターの挨拶の後、エルサルバドルチームが ①エルサルバドル基本情報、②コーヒー農園の実態と課題、③学校の様子と貧困への取り組みについて現地の写真とともに紹介し、現地で行ったアンケートとその結果、日本の高校生との比較、現地研修を通して学んだことを発表した。また、現地で活動する JICA ボランティアから子どもたちへのメッセージ動画も紹介した。



## ● セッション5 「実践！ アクティビティをファシリテートする」 8/23 10:33-16:53

### 1. 1日目のふりかえりと自己紹介 10:33-[22]

- ◇ ファシリテーターより、教師海外研修の内容紹介と1日目のふりかえりを行った。
- ◇ 教師海外研修報告の感想をお題に、自己紹介を行った。

### 2. 2日目のプログラム確認 10:55-[5]

◇ ファシリテーターより、2日目のプログラムの流れと、第4回および実践報告フォーラム2016の説明をし、確認した。

### 3. 実践！ 流れのあるプログラム作り① 11:00-[66]

- ◇ 資料『開発教育・国際理解教育プログラム作り』を配付。ファシリテーターからプログラムの作り方を説明した。
- ◇ 同資料にある『プログラムづくりの流れ』の方法に沿って、個人でプログラム作りを行った。

#### ＜プログラム作りのポイント＞

- ・ステップ1「テーマのイメージ出し」において：自分がテーマについてどんなイメージを持っているのか、どれぐらいの幅があるものかを確認し、たくさんのイメージの中からどこにフォーカスしていくのが取舍選択をする。書き出したイメージの中から、プログラムのねらいになりそうなことがあれば印をつける。
- ・ステップ2「ねらいの設定」において：プログラムはねらいが一番大切。学習者主体の目線で、学習者の気づきと行動を考える。
- ・ステップ3「プログラムづくり」において：知識や発見を共有するプログラムの場合は、ステップ2で書き出した対比表のうち「何を知るとよいか」側のみから作っていく（＝気づきのプログラム）。行動を促す場合は、参加型の手法を多用し「どう行動するようになる」とよいか側のみから作っていく（＝築きのプログラム）。気づきと築きの両方が入っているものが「気づきから行動へのプログラム」となる。

◇ 書き出したプログラムをグループ内で一人ずつプレゼンし、アドバイスをし合った。



- 休憩 - 12:06-[63]

#### 4. グループ替えと自己紹介 13:09-[9]

- ◇ 会場内を立ち歩き、多様なメンバーになるよう参加者同士で調整し合い、グループ替えを行った。
- ◇ グループ内で「今の気分を色で例えると」というお題で自己紹介を行った。

#### 5. 実践！アクティビティファシリテーション -----

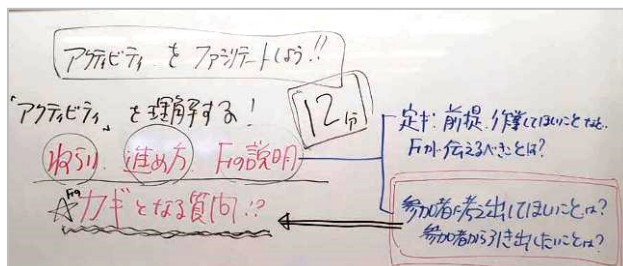
##### 5-1. アクティビティを把握し、プログラムを作ろう 13:18-[45]

- ◇ 資料『アクティビティ3～8』を配付。1日目「3-2. ソーシャルスキルトレーニングの方法」にて配付した資料『ソーシャルスキル1～8』の一部を合わせた8つのアクティビティの概要について、ファシリテーターから説明した。

<8つのアクティビティ>

- ① 自己理解/自己紹介のスキル
- ② コミュニケーションスキル・感情をコントロールするスキル・自尊心を高めるスキル・敬意をはらうスキル
- ③ わたしメッセージ…非攻撃的自己主張
- ④ 4つのコーナー…多様性理解
- ⑤ グローバル・ビンゴ…私たちの暮らしと世界のつながり
- ⑥ パナナとりゲーム…共生の未来に向けて - 協力と行動 -
- ⑦ 受け入れるのはだれ…ランキングの手法
- ⑧ 子どもならOK?おとなならOK?…子どもの権利条約

- ◇ 8つのうちアクティビティ①～⑤、⑦、⑧の計7つのアクティビティを1グループ1つ担当し、まずは個人でアクティビティのねらいと進め方を把握した。
- ◇ 1グループの持ち時間を12分間とし、時間内でねらいのエッセンスを体験してもらうためのプログラムをグループで組み立て、同時にアクティビティ提供時の役割分担も行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…参加型のポイントは、一方的に教えるのではなく、参加者自身が気づいたり考え出したりすること。ファシリテーターが説明すべきことと参加者自身に考え出してもらうことを明確にし、参加者自身の気づき・学びがどのような問い、作業、共有の中での出るかを考える。



##### 5-2. アクティビティを提供しよう 14:03-[118]

- ◇ グループメンバーをAとBの2チームに分け、それぞれセミナールームA・Bに移動した。
- ◇ A・Bルーム共に1グループずつ順にアクティビティ提供をし、体験をしたメンバーは2分間で「よかった点」と「より良くするための提案」をそれぞれ色の違う付箋紙に書いた。

#### 【作成したプログラムのねらい・プログラム展開】

##### ① 自己理解/自己紹介のスキル

[ねらい：安心してしゃべれる仲間を作ろう]

- 1) 「呼ばれたい名前」「好きなもの・嫌いな物どちらか一つ」「この夏一番の思い出」をA4用紙に個人で書く。
- 2) 誕生日が元旦に近い人から自己紹介を行う。
- 3) 自己紹介をする前とした後で、今のグループの人間関係にどんな違いがあったか?をグループ内で話し合う。
- 4) 感想発表、全体で共通して言えることを考える。
- 5) 自己紹介の良さや意味を共有する。



##### ② コミュニケーションスキル・感情をコントロールするスキル・自尊心を高めるスキル・敬意をはらうスキル

[ねらい：どうして話すスキルが大事なのかを考える]

- 1) 話すスキルにおいて大切なことを個人で考え、それをグループ内で共有する。
- 2) ペアを作り、資料中のエクササイズ『言語的コミュニケーション』『非言語コミュニケーション』を行う。
- 3) グループで感想を共有する。
- 4) 個人で、話すスキルがなぜ大切なのかを書き出す。

5) 書いたことをグループで共有する。

### ③ わたしメッセージ

[ねらい：相手を非難攻撃せずに自分の意思を伝える方法を身につける]

- 1) 資料を基に「わたしメッセージ」とは何かを説明する。
- 2) 「あなたメッセージ」と「わたしメッセージ」の違いを実演し、「わたしメッセージ」の3段階を板書し確認する。
- 3) 資料中の『場面 1～3』を、「わたしメッセージ」でやりとりできるように考え、ポイントをA4用紙に書き出す。
- 4) 隣のグループと用紙を交換し、共有する。
- 5) ファシリテーターより、「わたしメッセージ」の例を紹介し、2つのメッセージ方法について、言われた時の気持ち、行ったときの気持ちを共有する。



### ④ 4つのコーナー

[ねらい：たくさん意見を聞きこよう、言おう]

- 1) A4用紙を4つに区切り、それぞれのマスに「はい」「どちらかといえばはい」「いいえ」「どちらかといえばいいえ」を記入し、机の中央に置く。
- 2) 資料からファシリテーターが抜粋して質問を出し、自分が当てはまる答えを指した。グループ内で少数派の人から理由を出し合う。
- 3) グループ内で出し合った理由をふりかえり、個人の意見の違いや考えの多様性と、その大切さを確認する。
- 4) 物事を進めるにあたって意見を聞く・出すことに対して、私たちはどうあるべきかをグループ内で話し合う。
- 5) 話し合った内容を全体で共有する。



### ⑤ グローバル・ビンゴ

[ねらい：身の回りの生活と海外の国とのつながりに気づく]

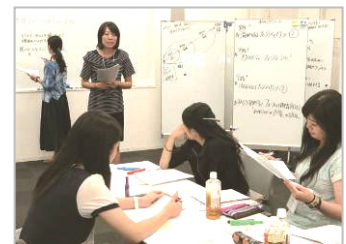
- 1) 自分の生活の中で海外とつながっていると思うことを全体で出し合う。
- 2) 会場内を立ち歩き、ビンゴカードに書かれた質問に該当する相手を探す。
- 3) ビンゴになった列と質問の答えと名前を全体で発表する。
- 4) やってみて気づいたことを全体で出し合う。



### ⑦ 受け入れるのはだれ

[ねらい：問題解決にあたって話し合いと協力が基本であることを知る]

- 1) 参加者は、「日本に移住を希望する外国人の入国審査をする人」になりきって考えることをファシリテーターから伝える。
- 2) 資料中の『移住希望者プロフィール』を読み、個人で優先順位をつけ、1位と9位を選ぶ。
- 3) 選んだ順位と決め手になったことを発表し、グループ内で話し合っってグループとしての1位と9位を決める。
- 4) 話し合いの内容と結果を全体に発表する。
- 5) 難民の定義を説明する。
- 6) 難しい題材だが、話し合ったことに意味があり、「そうだよね」など共感の言葉が出ただけで価値があると伝える。



### ⑧ 子どもならOK?おとなならOK?

[ねらい：子どもの権利条約を知り、それを守るためにできることを考える]

- 1) ファシリテーターから、子どもの権利を考えることを説明する。
- 2) 資料中の表『子どもならOK?おとなならOK?』を個人で考え、グループ内で意見交換する。
- 3) 資料中の『子どもの権利条約』を個人で読み、表の子どもの欄の項目が40条のうちどれにあたるかを考える。
- 4) 子どもの権利を守るために何ができるかをグループで考え、全体で共有する。
- 5) 考えたことを今日から実践して欲しいと、ファシリテーターからメッセージを送る。

5-3. 他グループメンバーからの評価の確認 16:01-[7]

◇ 2種の付箋紙を発表者に渡し、内容を確認した。

5-4. ふりかえり 16:08-[11]

◇ アクティビティ提供体験と付箋紙の内容をふりかえり、個人でよりよい参加型のポイントを3つ書き出し、グループで共有した。



6. グループ替え 16:19-[2]

◇ セミナールームAに集まり、11グループに分かれて指定のテーブルに分かれて着席した。

7. 実践！流れのあるプログラム作り② 16:21-[32]

◇ プログラム作成様式を使用し、「3. 実践！流れのあるプログラム作り①」で考えたプログラム案を、完成に向けて個人で再度考えた。

◇ ファシリテーターコメント…「学ぶ」の語源は「真似る」と言われている。JICA中部ウェブサイトから閲覧可能な、過去10年の研修受講者の実践例からヒントを得るのも良い。



● セッション6 「第4回研修 実践報告フォーラム2016の概要説明と準備のお願い」 8/23 16:53-

17:10

1. 第4回研修 実践報告フォーラム2016の概要説明と準備のお願い 16:53-[14]

◇ 資料『第4回研修・実践報告フォーラム2016に向けた3つのお願い』を基に、事務局から説明を行った。

◇ 実践報告フォーラム2016にて行う4つの分科会体験ワークショップを担当する有志を募った。

◇ 開発教育・国際理解教育の担い手として自分が何を大事にし、何をしていくかを、第2回の感想とともにグループ内で伝え合った。



2. JICA TIME 17:07-[3]

◇ JICA 中部 木村職員より、終わりの挨拶を行った。

★ 17:10 終了